

平成 28 年 9 月 1 日

電波利用環境委員会

CISPR I 作業班委員各位

**CISPR 35 の国内規格答申の提案について**

CISPR I 作業班主任 雨宮不二雄

**1. 主旨**

CISPR 35 は CISPR 20 と CISPR 24 を統合するとともに、マルチメディア機器のイミュニティに関わる諸条件や新たなイミュニティ試験法等を導入して、平成 28 年 8 月に第 1.0 版が発行された。

これに伴い CISPR 20 及び CISPR 24 は CISPR 35 第 1.0 版発行から 3 年ないし 5 年後に廃止され(※)、その後は CISPR 35 が CISPR 20 及び CISPR 24 に代わって、各工業会が自主的に発行しているイミュニティガイドライン等に参照され、放送受信機や情報技術装置を含む多種多様なマルチメディア機器への適用が想定される。

こうした状況を鑑み、国内の工業会から CISPR 35 第 1.0 版の国内規格化を望む声が上がっており、CISPR/I 作業班にアドホックグループを設置し、CISPR 35 第 1.0 版の国内答申案作成作業を開始することとしたい。

※現時点で廃止時期は明確に決まっておらず、CISPR 杭州会議の中で 3 年あるいは 5 年の案が出ている。

**2. CISPR 35 答申案作成アドホックグループの設置**

答申案を作成するため、I 作業班内部に以下のアドホックグループを設置する。

(1) 名称: CISPR 35 国内規格答申アドホックグループ

(2) リーダ: 牧本(I エキスパート) (以下敬称略)

(3) 委員: I 作業班構成員の希望者及び I 作業班構成員の推薦者等とする。委員案(敬称略)を以下に示す。

- ① CISPR/I 関係者: 雨宮(I 主任)、堀(I 主任代理)、長部(I エキスパート)、千代島(同)、廣瀬(同)、醍醐(同)、星野(同)、秋山(同)他
- ② CISPR/A 関係者: 田島(A 主任)
- ③ 試験機関等: 幸島(TELEC)、羽田、牧本(JQA)、村上(JET)
- ④ 放送・通信業界: 秋山(兼:NTT)
- ⑤ 産業会等: 長倉、松田(JEITA)、醍醐(兼:JBMIA)、大槻(CIAJ)

**3. アドホックグループの検討対象**

CISPR 35 第 1.0 版を検討対象として答申案を検討する。

**4. アドホックグループの作業項目**

CISPR 35 の日本語訳、国際規格からのデビエーションの検討、答申案の作成を行う。

**5. スケジュール**

平成 28 年 10 月にアドホックグループを設立し、1 年後の答申案作成を目標とする。

以上